

サンホセ日本人学校オンライン合同学習実施報告書

提携校：アグアスカリエンテス日本人学校

実践月日 9 月 21 日

報告者： 宮本豪

対象学年	教科	単元	合同学習形態
中 1	国語	星の花が降るころに	間接

目的： 物語のその後を想像し、情景を表現しながら書かせたい

状況	・自分の言葉で文章を書くのが苦手 ・情景の表現を読み取るのが苦手
----	---



手立て	①AC校生徒の創作した物語その後の「第五場面」を読んで、情景や工夫点を読み取る ②それらを基に自分でも「第五場面」を創作する
-----	--



結果	・友達の物語を書き方のモデルとして参考にすることで取り組みやすくなった ・友達の物語を分析することで、特に情景の表現の仕方を学べた ・自分でも情景を表現した独自の「第五場面」を書くことができた
----	--

「主体的・対話的で深い学び」の実現状況

※以下の項目を達成するための工夫ができたか

主体的な学び		対話的な学び		深い学び	
興味・関心を高める	○	子ども同士の対話の場の充実		教科の見方・考え方を生かす	○
粘り強く取り組ませる	○	これまでの知識・理解だけでは		新たな問いや課題や考え	
見通しをもたせる	○	説明できない状況づくり		を創造させる	
振り返りをさせる		授業における「問い」の焦点化	○	考えを伝え合うことを通	
		協力して解決する場面設定		して概念を形成させる	
		外部人材、先哲との対話設定			

8月26日(木)

星の花が降るところに。
がさつた

新学期 戸部君と帰る
公園 手もついて入る 夜は暗くない
夏実がいた。

満開の桜 一人 夏実、戸部君
⑤ あ、銀木屏の木おぼえてる？
何が変わった気がした……

夏実に声をかけた
一緒に帰らないう？

夏実、隣、教室の子と帰った。
仲直りできてない、悩んでる、
夏実のことを忘れてしまった。
公園に行き、また思い出した。
私は夏実のことを心した。
公園に行き、また、夏実は
ちがう友達と遊んでいた。

AC校授業板書

「あの」	「あの」
「夏実の赤だ」	「夏実の赤だ」
「おいお前う仲直りしろよ」	「おいお前う仲直りしろよ」
「なんて、なんで戸部君が知っているの。」	「なんて、なんで戸部君が知っているの。」
「その時、夏実が隣に座ってきた」	「その時、夏実が隣に座ってきた」
「しばらく、沈黙が続いたが、」	「しばらく、沈黙が続いたが、」
「夏実が、」	「夏実が、」
「あの銀木屑の木、覚えてる？」	「あの銀木屑の木、覚えてる？」
	「この瞬間、何かが変わったような気がした」